

ヨメの自由研究 珈琲の話じゃなくてヨメ!

荒田珈琲
新聞 ②
Vol. 82
2024. 7. 27(土)

暑中お見舞い申し上げます。連日厳しい暑さが続いておりますがお元気にお過ごしでしょうか。子どもたちは夏休み、大人たちはオリンピックと甲子園、珈琲屋はのんびりまったりと2024年の夏も作り返します。



園芸部
つうしん
Special

先日の休みに思い立って朝のドライブへ出かけました。リュウゼツラン(アガベ)の花を見たかったのです。数十年に一度咲く幻の花、しかも巨大!それが「植物園」ではなくその辺の道端に生えているって!? 園芸部としては確認しに行くしありません。目指すは南区上永谷。レッツゴー♪



リュウゼツランとは、アガベの一種。ロゼット状に育つ中南米原産の多肉植物。大きなアオエのようにも見えるギザギザの葉が龍舌の舌を思わせませす。品種も多く、テキサラやアガベシロップの原料としても知られます。数十年に一度だけ開花し、花が咲くとその株は枯死します。英名はCentury plant、世紀の年月をかける花!

いざ上永谷へ行ってみると、遠くからでも見えました。環状2号線の中央分離帯にある植栽から太い莖(というよりもや柱)がニョキ、とそびえ立っているのです。信号機よりも高く、じっくり観察とはいかないものの、莖から分かれた枝先に無数のつぼみが集まり黄色い花を咲かせていました。こんもりとかたまって盆栽風(背知らし玉仕立て)に育ち立って、リュウゼツランはこのような所に自生しないので、おそらく誰かが手持ちの金本から植えたのでしょう。通常、土木事務所の管轄外の植物は伐採されてしまうのですが今のところ「通行の妨げにならない限りそのまま青静観中(でも公共の場所に勝手に植えるのはダメよ!)」だそうです。地域にあたたかく見守られて、良かったね...♡ 花が終われば枯れてしまうのは傷いけれど、たくさんの子株に命を託し生まれ変わるので、きっとまたいつか会える...長生きしないとイケません



今年は日本の各地でリュウゼツランが開花しているようで、辺境では江の島や八景島でも見られます。でも、数十年に一度がまとめて発生するなんて大丈夫!? 地球のセンターに警鐘を鳴らす自然からのメッセージかもしれません。子株がモリモリ育ってリュウゼツランだらけになった熱帯・横浜は困ります。幻の花が由々しき事態の引き金とならぬよう原夏いつ花見だけして(だって本当にただの道端なの)地元へUターンしたのでした。

おまけ

ヨメとリュウゼツランの出会いが小学時代。推理のトリックとして存在を知りました。リュウゼツランから取れる繊維は水を吸うと4分の1くらいまで収縮する性質があるそうで...

● 珈琲探偵 ●
● 荒田 ●

「犯人は奥さん、あなたですね。お礼書との関係と疑い排除されたあなたが社長に贈ったネクタイは...そう、リュウゼツランの糸で織らせた特製だった。何も知らない社長は喜んでそれを付けてパーティーへ行きましたよ。そしてタレに落ちたフリをしたあなたは助けようと思いが込みかかろうに...きつ編まったネクタイが思いができず溶けて命を落としたのです。社長はあなたを1つから愛していたんですよ。」(完)



8月のお休み

5(月)・12(月・祝)・19~22(月~木)・26(月)
(祝日ですがお休みです) (連休をいただきます)